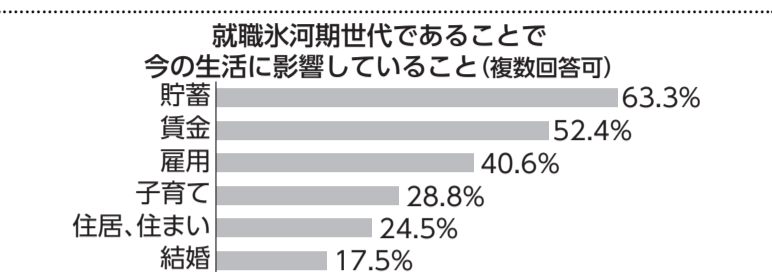


# 新婦人緊急アンケート 就職氷河期世代の女性は今



その他(抜粋): キャリア、過重労働、人生設計、社会保険料、将来の年金金額、ごとの数、家がない、自分に自信が持てない、なんとなくフリーランスになつていない、絶対に正規雇用を手放せない、ブラックな働き方で鬱(うつ)になり回復したものの後、精神のバランスを崩しやす、旅行や買い物の制限、家水信が持てない、なんとなか、河期でなければ普通に就活しフリーランスになつていない、かも、政治不信、生き方

「就職氷河期世代」とは、1993〜2004年に就職活動をした人たちで、最近もこの世代の名目賃金の伸び率が5年前と比べ、全世代で唯一マイナスと二ノースに女性へ向けて緊急アンケートを実施(5月12日〜19日)。寄せられた声を紹介し、桜美林大学准教授の飯島裕子さんに、求められる支援について聞きました。

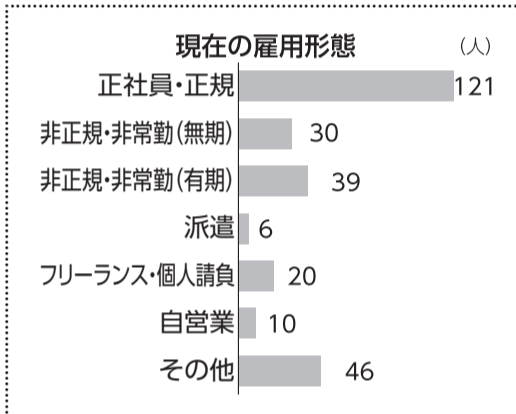
## 生き方に制限が

アンケートには、267人から回答がありました。回答者のうち「希望の職に就けた」と答えた人は43.1%、「いいえ」や「違う職種で妥協」などの文章回答が53.9%いました。「就職氷河期世代であることが今の生活におよぼす影響」(左ウツ)について、「貯蓄」と答えた人が63.3%と一番多く、「賃金」52.4%、「雇用」40.6%、「子育て」28.8%、「住居、住まい」24.5%、「結婚」17.5%と続きました。

「就職先が決まらずに大学を卒業。その後ざりざり決まった職場はほとんど人が減らされ、仕事が終わらず精神疾患になり退職。自分に自信がもてず、転職を繰り返した」とつと正規職に就いたのは40歳過ぎてから。結婚も子育ても住宅もあきらめた「あの時期にちゃんとした就職ができていれば、人生が違っていただ」：就職難によつて選択肢が制限されたことが、その後の人生に大きく影響している。

## 緊急アンケートの質問内容

- ①お住まいの都道府県
- ②生まれ年
- ③就職活動で希望の職に就けたか
- ④現在の雇用形態
- ⑤現在の収入で生活していけるか
- ⑥就職氷河期世代であることが、今の生活に影響していること
- ⑦上記で回答された項目について、具体的な内容



「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職先が決まらずに大学を卒業。その後ざりざり決まった職場はほとんど人が減らされ、仕事が終わらず精神疾患になり退職。自分に自信がもてず、転職を繰り返した」とつと正規職に就いたのは40歳過ぎてから。結婚も子育ても住宅もあきらめた「あの時期にちゃんとした就職ができていれば、人生が違っていただ」：就職難によつて選択肢が制限されたことが、その後の人生に大きく影響している。

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ



アンケート結果からは、新卒時から続く氷河期世代の困難が現在まで連続と続いているといわれています。がえませんが、「がんばっても報われない」「必要はない」「どへりかた」という言葉に胸が締めつけられる読者は多いといわれています。

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ



「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

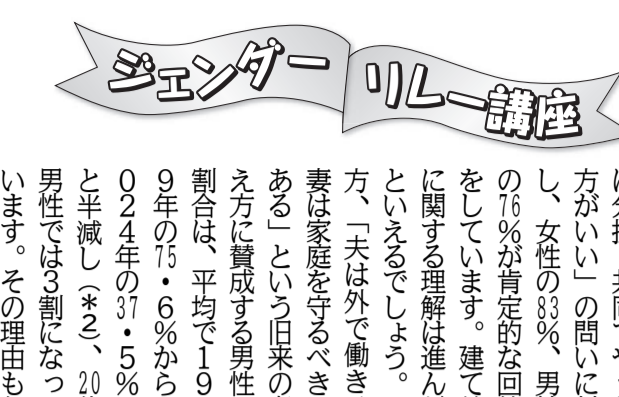
「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ



「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス s-press@shinfujin.gr.jp へ

## ホットライン

### 山梨

「ごっちゃ祭り」で憲法アンケート  
【北杜支部 伊集院尚】  
青空の下、北杜市白州で開かれた「ごっちゃ祭り」に参加。福祉や環境、多様性をテーマに地域の人が交流するコミュニティイベントです。支部のSNSを見、主催者が声をかけてくれました。当日、おそろいのTシャツを着た私たち20人は、新婦人が実現してきたことを展示。絞った9つのテーマ(憲法改憲に反対・医療費を下げ、武器輸出に反対・保育園からの布団持ち帰り廃止など)へのシールアンケートは大反響。意外だったのは、若い世代ほど憲法や武器輸出への反応が強かったこと。思いがけない出会いもあり、さまざまな世代の方々と、憲法や私たちができることについて考える機会になりました。



おそろいのTシャツで▲山梨

### 大阪

64人で田植え  
農民連と交流  
【府本部 秋元真由美】  
5月9日朝、子どもたち23人をふくむ64人が、大阪河南町の田んぼに集まりました。小鳥やカエルが歓迎し、弾む気持ちを抑えきれない子どもたちは、シロツメクサで花輪を作ったり、虫取りに走り回っていました。田んぼに入ると、「せーの」と、縄についた赤い玉のところに苗3本を植えていきます。一列ずつみんなが植える共同作業です。さわやかな風とトンボが応援し、「田植えって大好き」「楽しい」と、秋の稲刈りも楽しみにしています。産直運動につながる農民連との交流が、6月に支部・班・小組で125カ所計画されています。今年のテーマ「憲法」戦争しない」は、食料主権をまもる上でも大切なこと。自給率を上げるには生産者の暮らしを守る政治が欠かせません。交流



いのち育む田んぼ▲大阪

### 兵庫

スーパードモ  
お散歩デモ  
【須磨支部高倉台班 班 委員会】  
「憲法前文つて格闘高ね」と感動し、行動することに。会議後、みんな近くのスーパードモまでプラスタを持って「お散歩デモ」をしました。



「9条壊すな」と▲兵庫

### 福岡

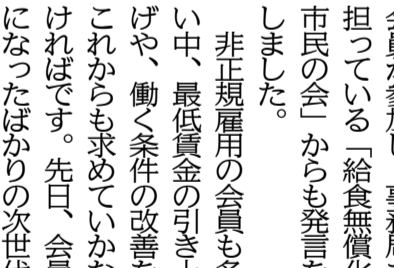
7人でワカメ採り  
【粕屋支部若宮班 田川澄子】  
4月13日、金印公園で有名な志賀島に7人でワカメ採りに行きました。



袋いっぱいワカメ▲福岡

### 新潟

メーデーに参加!  
鯉のぼりの飾り  
【新潟支部 飛田麻理子】  
働く者の祭典、メーデーに新潟支部からも多くの会員が参加し、事務局を担っている「給食無償化市民の会」からも発言をしました。



鯉のぼりに「改憲NO」▲新潟

### 愛知

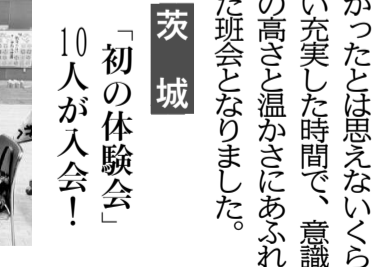
30数年ぶりに  
班会開いた  
【緑支部蛸畑(たこはた)班 安見祐二】  
ベテラン会員が多い蛸畑班ですが、班会はずっと開かれていませんでした。この春、読者から会員になった人の声をきっかけに、なんと30数年ぶりに班会が開かれることになりました! しんぶんタイムで「憲法9条があつて良かった!戦争にだけは巻き込まれたくないね」と話し合いました。美と平



温かさにあふれた班会▲愛知

### 茨城

初の体験会!  
10人が入会!  
【古河支部 北島晋栄】  
5月11日、年に一度恒例の「春の無料体験会」を開きました。一般紙に折り込んだピンクのチラシを手に14人のゲストが来



ピンクのチラシを手に▲茨城

### 石川

13人で田植え体験  
【金沢支部まつぼっくり班 高澤由紀子】  
5月17日、天候にも恵まれた日曜日朝、石川農民連会長の宮岸さんの田んぼに13人が集まりました。植え場所の印に合わせ、苗を植えていく作業は、ぬかるんで足元がふらつく中、大変おもしろい体験でした。参加者13人の内、私を含む3人が人生初の田植え体験!お米を食べるたびに、あの土の感触を思い出すと思います。宮岸さんによれば「あと5年もすると日本の食糧自給率は大幅に減少する」のだとか。具体的に数字を聞かされると、さらに危機感が募りました。作物と農家さんに感謝です。



人生初の体験でした▲石川

## それぞれの困難に合った支援を



政府は就職氷河期世代支援を2019年から行い、今年からは第3期として、①就労・処遇改善に向けた支援(非正規職の正規化等)、②社会参加に向けた段階的支援(ひきこもり支援等)、③高齢期を見据えた支援のパッケージを発表しています。就労支援が女性の場合、氷河期世代以前から現在に至るまで、非

せんが、新たに住宅確保なども含んだ。③高齢期を見据えた支援が入りました。実効性のある支援となるよう、注視していく必要があるでしょう。

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

「就職氷河期当時は、4年生で卒業の男性さえ就職できない状況で、「就職難に泣き寝入りしない女子学生の会」など女性たちの運動もありました。それでも女性は「腰掛け」の一般職に就くことが多く、結婚すれば経済的自立をすれば必要な、または妊娠・子育てで仕事から離れるなどといわれ、見えにくく存在が薄らぎました。水河期がターニングポイントとなり、雇用ポイントと雇われられ、死に正規職にしがみつ

## これからの家事労働

内閣府男女共同参画局の調査(※)によれば、「家事・育児等は分担・共同でやった方がいい」との問いに対し、女性の83%、男性の76%が肯定的な回答をしています。建て前に関する理解は進んだといえるでしょう。一方、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

## 男性の協力をどう引き出すか

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という旧来の考え方に賛成する男性の割合は、平均で1979年の75.6%から2024年の37.5%へと半減し、20代男性では5割に近づいています。その理由も年

年齢	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70以上
賛成の割合	30	37	34	37	33	46
賛成とする理由						
日本の伝統的な家族の在り方だと思ふから	14	16	25	20	17	29
妻が家庭を守った方が子どもの成長などに良い	39	39	56	62	60	63
夫が外で働いた方が多くの収入を得られる	32	32	36	38	35	39
育児等と両立しながら妻が働くことは大変	71	64	41	55	67	49
自分の両親も役割分担をしていたから	29	18	10	13	14	16

出所)内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査(2024)」(2025)より作成

元千葉大学教授 久保佳子

元千葉大学教授 久保佳子

元千葉大学教授 久保佳子

元千葉大学教授 久保佳子

元千葉大学教授 久